

鹿児島市の中心部、市役所から真っ直ぐに錦江湾にのびる幅員50mの広幅員道路の景観整備の見直しに参画した事例。コンサルタント作成の道路内に鹿児島港に入港した実績のある「クイーンエリザベス号」をモチーフにした原寸大オブジェ整備基本設計案を景観マスタープラン委員（中村良夫氏）より見直し協力作業を要請され、実施設計の枠組みの中で計画から基本、実施設計までを担当した。

あらためて場所の特性を再確認し、戦災復興計画の景観軸＝海への通景（ビスタ）の尊重を提案、歩車道の一体的利用が可能な「みち広場」を提案し、シンプルでかつ歩車道一体の「市庁舎前広場」としての多目的空間となるような仕掛けを用意した。正面の広場は日常的には噴水広場、水を止めれば様々なイベント利用の広場となり、市は完成までの間に経済界や地元町内会にも働きかけ、今では夏祭りやイルミネーションイベント、物産市会場など様々な活用が定着している。行政主導だが、地元市民との協働の成果を経験する記念プロジェクトとして本稿に掲載する。

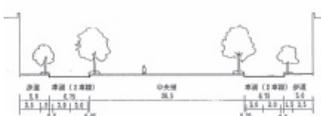
従前の道路横断構成図



コンサルタント提案段階の道路横断構成図（見直し）



アプル提案の横断構成図（採用）



道路幅員構成（案）の変遷



みなと大通り公園の鳥瞰写真*



歩車道一体の石舗装*



みなと大通り公園のイベント風景市庁舎屋上より*

諸元 所在地：鹿児島市名山町・易居町 事業主体：鹿児島市 対象道路：幅員50m、延長約250m 工事期間：'88～'92 施工：丸福建設、吉屋組、栗田工業、坂本建設、他 事業費：約11億7千万円／撮影：*久高良治（772・2877） 担当：中野、松村、小野寺、重山、協力：詳細設計-大福測量設計